i-SENS の導入によって大阪産業大学受験者への影響の調査研究

04H021 奥本秀貴

目次

1 はじめに 1

2 i-SENS 3
2.1 OpenPNE 3
2.2 i-SENS のサーバのスペック 4

3 目的 7

4 アンケートの内容 9

5 アンケートの結果 11
5.1 アンケートの集計 13

6 現在の i-SENS の問題点とその解決策の提案 15
6.1 アンケートの結果を参考にした受験生が受ける i-SENS の影響 15
6.2 現在の i-SENS の問題点 15
6.3 解決策の提案 15

7 提案の検証 17
7.1 本大学の学生を i-SENS のメンバーに取り込む 17
7.2 学生の評価によって、教員を i-SENS のメンバーとして取り込む 17
7.3 教員の評価によって本大学からの資金援助を受けやすくする 17
7.4 受験生を i-SENS のメンバーに取り込む 17
7.5 アクティブユーザを作る 17

8 考察 18

9 まとめ 19

1　はじめに

現在、世界最大級の Social Networking Service(SNS) [*1]サイト MySpace [*2]や日本では株式会社ミクシィが運営する SNS の mixi[*3] を中心に、社会に SNS が普及した [1–3]。

現在の mixi のユーザ数を図 1[*4]に示す [4]。図より、現在の mixi のユーザ数は 1000 万人に達していることが判る。

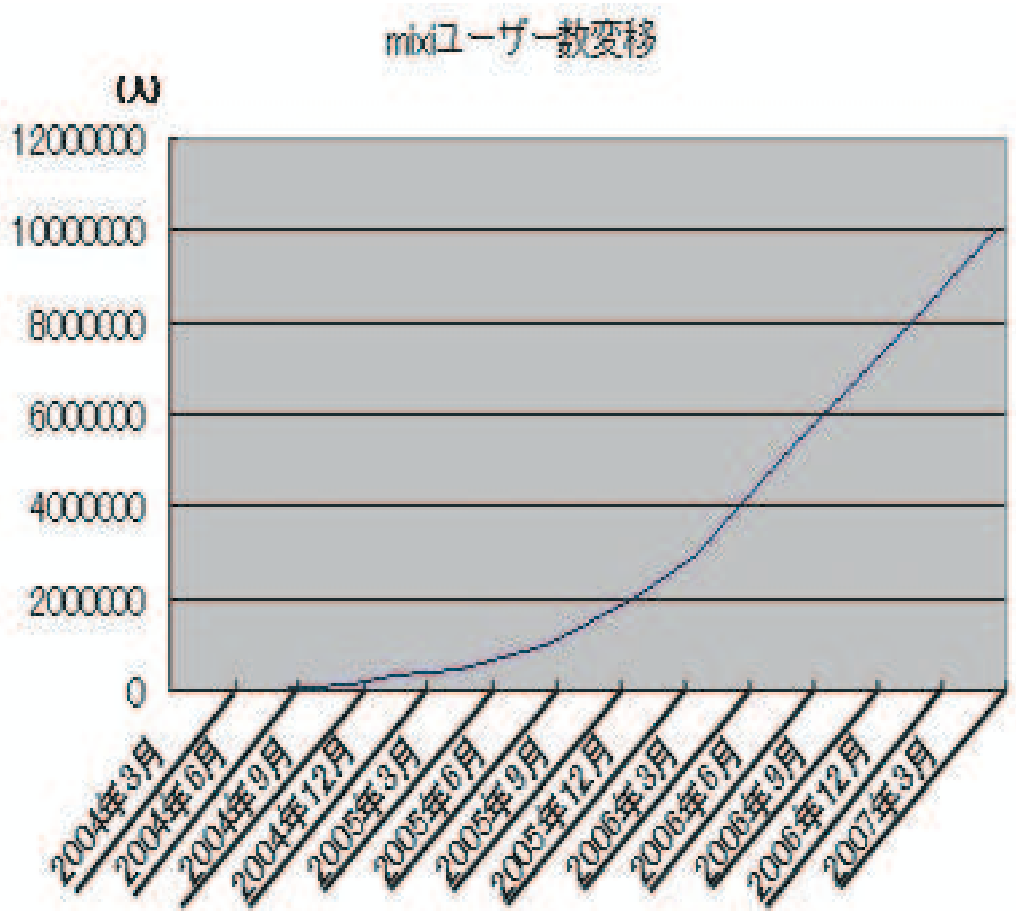

図 1　ミクシィの公式発表による mixi のユーザー数変移

また、家庭からパソコンでインターネットにアクセスしている国内のアクティブユーザ数を図 2[*5]に示す。図 1 と図 2 より、曲線の傾きが図 1 の方が急であることがわかる。だから、SNS はユーザに対して好印象を与えていることが判る。

[*1] SNS(Social Networking Service) とは人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービスである。あるいはそういったサービスを提供する Web サイトを指す。

[*2] MySpace は、2003 年 7 月に設立された MySpace 社が運営する世界最大の SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)。音楽などのエンターテインメント分野の機能やコンテンツが充実している。アメリカを中心に 1 億人を超えるユーザを抱え、世界で最も人気にある Web サイトの一つとなっている。

[*3] mixi は、株式会社ミクシィの運営する会員 1000 万人以上を誇る国内最大の SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)。2004 年 3 月に開始され、会員数は 2005 年 8 月に 100 万人、2006 年 7 月に 500 万人、2007 年 5 月に 1000 万人を突破した。数十万のコミュニティ、1 日 2 億ページビュー以上のアクセスがある。

[*4] ミクシィの公式発表による mixi のユーザー数変移のグラフは Garbagenews.com,SNS の「mixi」、ユーザー数 1000 万人突破の記事の公式発表による、mixi のユーザー数変移より参照した。

[*5] インターネット視聴率調査のネットレイティング (株) が 2007 年 04 月 25 日に発表した結果による、家庭からパソコンでインターネッ

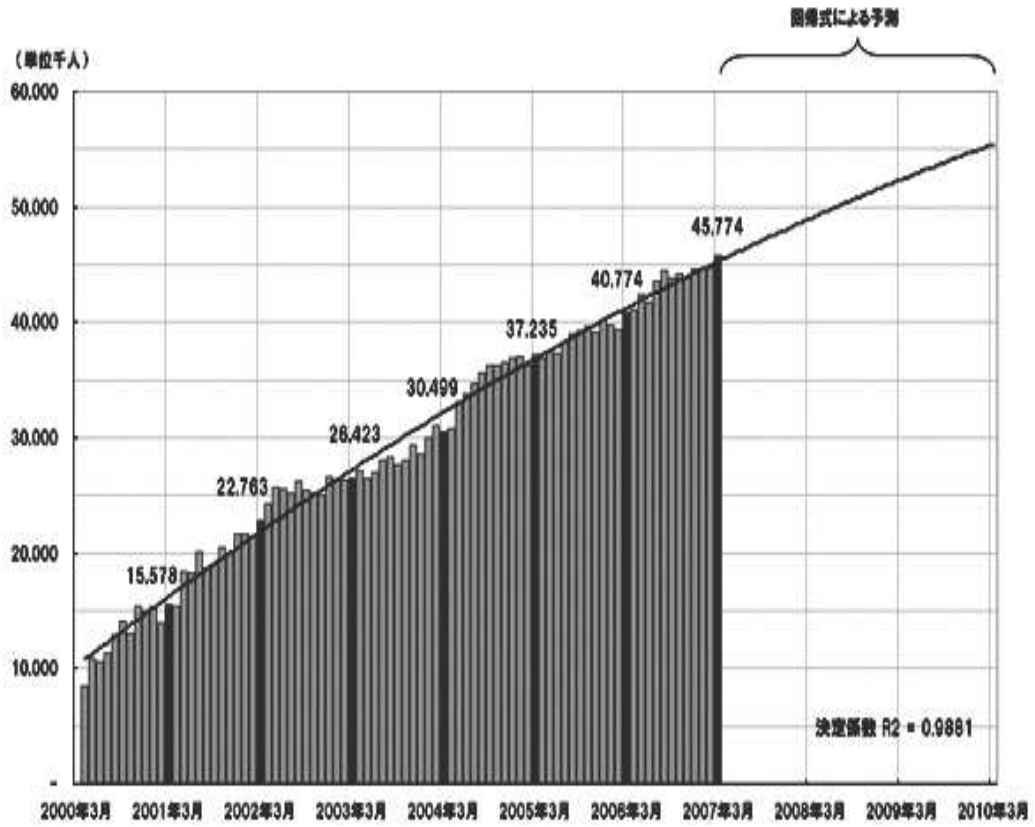

図 2　家庭からパソコンでインターネットにアクセスしている国内のアクティブユーザーの数の推移

上記のように、その SNS を利用している Web サイト[*5]が、利用者から支持されている [5]。

そこで、今年度より大阪産業大学 (本大学) の情報システム工学科の学生によって構築・運営している SNS の i-SENS が受験生へどのような影響を与えているのかについて興味を持った。そして、i-SENS が受験生へよい影響を与えると本大学にもよい影響を与えられるのではないかと私は考えた。

トにアクセスしている国内のアクティブユーザーの数を参考に参照した。

[*5] Web サイトは 1 冊の本のように、ひとまとまりに公開されている Web ページ群である。また、その Web ページ群が置いてあるインターネット上での場所。Web サイト内のページはリンクで連結され、互いに行き来できるようになっている。Web サイトの入り口であるトップページ (ホームページ) と、Web サイトを構成する一連の Web ページ、画像ファイルなどから成る。

2 i-SENS

i-SENS は本年度より本大学の機器を使用して構築された SNS である。SNS エンジンは OpenPNE を使用している。

2.1 OpenPNE

OpenPNE は、株式会社手嶋屋が中心となって開発をすすめているオープンソース[*6]ソフトウェアの SNS エンジンである [6]。PHP ライセンス[*7]で公開されているオープンソースのソフトウェアであるため、誰でも無料でダウンロードして利用できる [7–9]。

2.1.1 OpenPNE が提供する機能

OpenPNE が提供する主な機能は以下のとおりである。

- ログイン
  SNS でクローズドな環境を構築するためには、ログインが必要である。
- 招待
  ログイン機能の一方で、新たなメンバーを集めないといけない。その方法として、メールによって友人を招待する機能もある。
- プロフィール
  プロフィールとは簡単な人物評や人物紹介のことである [10]。メンバーはすべて、プロフィールを用意しなければならない。ただし、プロフィールにどこまでプライバシー情報を記入するかは、個人の裁量にまかされていて、全員・マイフレンド・公開しないとどこまで公開するかも指定できる。
- マイフレンド
  マイフレンドは SNS 内の友人のことである。
  不特定多数のメンバーが参加する SNS を友人だけとのコミュニケーションに利用することができる。友達をマイフレンドとして登録し、自分が発信する情報の公開先をマイフレンドまで限定することで、見ず知らずの人たちに干渉されないコミュニケーション空間を手に入れることができる。
- 日記
  日記をつけるための機能である。日記の公開先はマイフレンドまでなど限定できる。日記の更新情報をマイフレンドに自動的に通知することができる。
- メッセージ
  SNS 内に限定された電子メールのような機能である。メッセージ機能があることで、1 対 1 で特定した相手と意見の交換ができる。
- コミュニティ
  コミュニティとは人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、およびその人々の集団のこと

[*6] オープンソースとは、ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを、インターネットなどを通じて無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行なえるようにすること。また、そのようなソフトウェアのことである。

[*7] PHP(PHP : Hypertext Preprocessor) とは、オープンソースの汎用スクリプト言語である。特に、サーバサイドで動作する Web アプリケーションの開発に適している。言語構造は簡単で理解しやすく、C 言語の基本構文に多くを拠っている。手続き型のプログラミングに加え、オブジェクト指向のプログラミングも行える。
PHP ライセンスは、フリーウエア・オープンソース・商用にかかわらず PHP を自由に使用・配布・修正する権利を保障する。商用目的で PHP を配布する場合、ユーザーが買ったパッケージがフリーソフトウエアである PHP を含んでいるということを明確にユーザーに示す記述を行なう必要がある。

である。転じて、インターネット上で、共通の関心をもちメッセージのやりとりを行う人々の集まりである [11]。

自分が興味を持っている話題がある場合は、コミュニティで議論する。既存のコミュニティに参加することも可能で、自分でコミュニティを開設することもできる。

- トップページとマイページ

  トップページとは、自分がログインして最初に表示されるページのことである。日記を書いたり、メッセージを送ったりといったコミュニケーションはこのページから始めることができる。また、マイフレンドの行動 (日記の更新) などもここに表示される。

2.2 i-SENS のサーバのスペック

今の i-SENS のサーバには、HDD[*8] にシステム情報処理研究室から提供されたものと情報応用科学研究室から提供されたものを組み立て使用されている [12]。

2008 年 1 月 17 日現在、i-SENS の主な仕様は以下のとおりである [13–17]。

- OS[*9]

  Debian(Debian GNU/Linux) version4.0
- CPU[*10]

  Intel(R)Pentium(R)4 2.53GHz
- HDD

  約 150Gbyte
- RAM[*11]

[*8] HDD(Hark Disk Drive) はハードディスクの読み取り装置。ハードディスクはディスクと読み取り装置が一体化していて着脱不能なため、ハードディスクの同義語として用いられる。

HD(Hard Disk) とは、代表的な記憶装置の一つある。磁性体を塗布または蒸着した金属のディスク (「プラッタ」という) を一定の間隔で何枚も重ね合わせた構造のものもあり、これをモーターで高速に回転させて磁気ヘッドを近づけてデータを読み書きする。磁気ヘッドとディスクは 10nm 程度と非常に接近するため、振動に弱いものである。パソコンを初めとするほとんどのコンピュータに搭載されている代表的な外部記憶装置である。ディスクの大きさは、ノートパソコン向けのものは 2.5 インチが、デスクトップパソコン向けのものは 3.5 インチがそれぞれ主流。コンピュータとの接続には SCSI や IDE(ATA) などが使われる。

[*9] OS(Operating System) とは、キーボード入力や画面出力といった入出力機能やディスクやメモリの管理など、多くのアプリケーションソフトから共通して利用される基本的な機能を提供し、コンピュータシステム全体を管理するソフトウェア。「基本ソフトウェア」とも呼ばれる。

ソフトウェアの開発者は、OS の提供する機能を利用することによって、開発の手間を省くことができ、アプリケーションの操作性を統一することができる。

また、ハードウェアの仕様の違いは OS が吸収してくれるため、ある OS 向けに開発されたソフトウェアは、基本的にはその OS が動作するどんなコンピュータでも利用できる。

[*10] CPU(Central Processing Unit) とは、コンピュータを構成する部品の一つで、各装置の制御やデータの計算・加工を行なう装置。メモリに記憶されたプログラムを実行する装置で、入力装置や記憶装置からデータを受け取り、演算・加工した上で、出力装置や記憶装置に出力する。

1 回の命令で同時に処理できるデータの量によって 8 ビット、16 ビット、32 ビットなどの種類があり、値が大きいものほど性能が高い。また、同じビット数でも、1 秒間に実行できる命令の回数 (「Hz」であらわされる) や、バスと呼ばれる周辺装置とのデータ伝走路が一度に運べるデータの量 (「ビット」であらわされる)、バスが 1 秒間に行える転送の回数 (「Hz」であらわされる) などに違いがあり、これらの値が大きいものほど性能が高い。厳密には、1 命令を行なうのにかかるクロック数や同時に実行できる命令数などの違いにも影響される。

パソコンでは CPU の機能を一つのチップに集積されたマイクロプロセッサ (MPU) が利用され、Intel 社の x86 シリーズと各社の互換プロセッサが市場のほとんどを占めている。

[*11] RAM(Random Access Memory) は、半導体素子を利用した記憶装置。コンピュータのメインメモリ (主記憶装置) に利用される。メインメモリのことを RAM と呼ぶこともある。

RAM はデータの読み書きを電気的に行なうため、動作が高速で、CPU(中央処理装置) から直接アクセスできるが、単位容量あたりの価格が高いため大量には使用できない。また、電源を切ると内容が失われてしまうという欠点がある。

このため、コンピュータには RAM のほかに、ハードディスクやフロッピーディスクなどの外部記憶装置 (補助記憶装置) が装備されており、利用者がプログラムを起動してデータの加工を行なう際には必要なものだけ RAM に呼び出して使い、長期的な保存には外

512Mbyte

- SNS エンジン
  OpenPNE 2.8.5[*12]
- PHP
  PHP 4.4.4-8
- MySQL[*13]
  MySQL 5.0

現在は公開したばかりでユーザ数がまだ少ないため、ユーザ 1 人あたり記憶領域の確保をしていない。しかし、1 人のユーザが快適に日記を書き込める記憶容量の環境は日本で最大級の mixi を参考にすると 100Mbyte である。今のサーバの記憶容量だと約 1500 人分しか管理できないことになる。それではユーザを増えていくと記憶容量の面で限界が低いと考えている。現在サーバの記憶容量が少ないため、他学科の学生の利用をさけている。また、バックアップ用の記憶領域もないこともサーバを管理する上で不便である。そういう点でも、i-SENS のユーザのデータを管理する上でサーバのスペックは、重要であると考える。

2.2.1 Debian

Debian Project [*14]の Linux ディストリビューション[*15]である [18, 19]。

Debian 独自のインストーラやパッケージの管理方式に独自の deb 形式を用いるなど、他のディストリビューションに比べて独自色が強いが、対応パッケージの多さや、きめ細かなパッケージ管理などの利点がある。Debian GNU/Linux のパッケージは GPL[*16]や BSD ライセンス[*17]など、再配布や改造が自由なライセンスに基づいて配布されている [20–23]。

また、世界中に 1000 人を超えると言われているボランティアの開発者によって開発されている。その人たちのおかげで、セキュリティホールやバグなどが発生した場合でも対応が速いのが利点である。このため、Debian は数ある Linux ディストリビューションの中でも珍しい「完全に自由である」という特徴をもつ。Debian から派生

部記憶装置が利用される。
いったん書き込むと内容の変更ができない記憶装置は ROM と呼ばれ、電源投入時に最初に読み込まれるプログラムの記憶などに使われる。

[*12] OpenPNE2.8.5 は 2007 年 10 月 23 日現在の最新安定版である。SSL が有効になっているときにファイルをダウンロードできない問題や、下書きしてからメッセージを送ると通知メールが送信されない問題など、多数のバグが修正されている。

[*13] MySQL とは、TCX DataKonsultAB 社などが開発している、オープンソースのリレーショナルデータベース管理システム (RDBMS)。マルチユーザ、マルチスレッドで動作し、高速性と堅牢性に定評がある。オープンソースなので基本的には無償で利用することができ、国内では有償でサポートを提供する企業もある。Windows や各種 UNIX 系 OS など、多くのプラットフォームで動作するのも特長の一つ。PostgreSQL などと並んで人気の高いシステムである。

[*14] Debian Project は、Debian を普及させることを目的とした任意団体。会則に基づいて活動している。

[*15] ディストリビューションとは、Linux カーネルとドライバやアプリケーションをパッケージにしたもの。作成・配布している個人や団体をディストリビュータという。Linux 自体は GPL に準拠したフリーソフトウェアだが、独自のパッケージ化で有償配布されるものや、ディストリビューション自体は無料だが、保守サービスを有料のものなど、多様なディストリビューションが出回っている。
著名なディストリビューションとしては、最も歴史があり構成がシンプルな「Slackware」、企業用として一世を風靡した「RedHat Linux」、日本語版として人気を博している「Turbolinux」や「MIRACLE LINUX」、独自のパッケージ管理手法を備える「Debian」、Apple が Power Macintosh 用に提供していた「MKLinux」などがある。

[*16] GPL(General Public License) とは、FSF(Free Software Foundation) の理念に基づいて明文化されたソフトウェアライセンス体系。主に GNU プロジェクトで開発されたソフトウェアや、その派生物などに適用されている。ソースコードの公開を原則とし、使用者に対してソースコードを含めた再配布や改変の自由を認めている。また、再配布や改変の自由を妨げる行為を禁じている。

[*17] BSD ライセンスは、オープンソースソフトウェアで使用されているライセンス体系のひとつ。無保証・免責を宣言し、再配布する際に著作権表示を行なうことのみを条件とする、極めて制限の緩いライセンスである。
著作権表示さえしておけば、BSD ライセンスのコードを他のプログラムに組み込み、しかも組み込み後のコードを非公開にできるため、商用化のしやすいライセンスである。また、GPL のように再配布時のライセンス条件を制限することもない。
BSD(BerkeleySoftware Distribution) は、カリフォルニア大学バークリー校で開発された UNIX 互換 OS である。多くの派生 OS があり、インターネットサーバ用 OS や研究用の OS として広く普及している。386BSD としてパソコン (PC/AT 互換機) にも移植され、その後、パソコン用の UNIX 互換 OS として 386BSD の後継である FreeBSD や NetBSD が広く普及している。

したディストリビューションも存在し、パッケージなどで Debian と互換性を持たせている。

3　目的

本大学では、対外向けに広告効果・学生の社会人基礎力向上を目的としたプロジェクト (OSU プロジェクト共育[*18]) を行なっている [24]。

センター試験と本大学と情報システム工学科との推移を図 3[*19]に示す。現在 OSU プロジェクトには、多大な費用を費やしているが、図より本大学の受検者数は減少傾向にある。

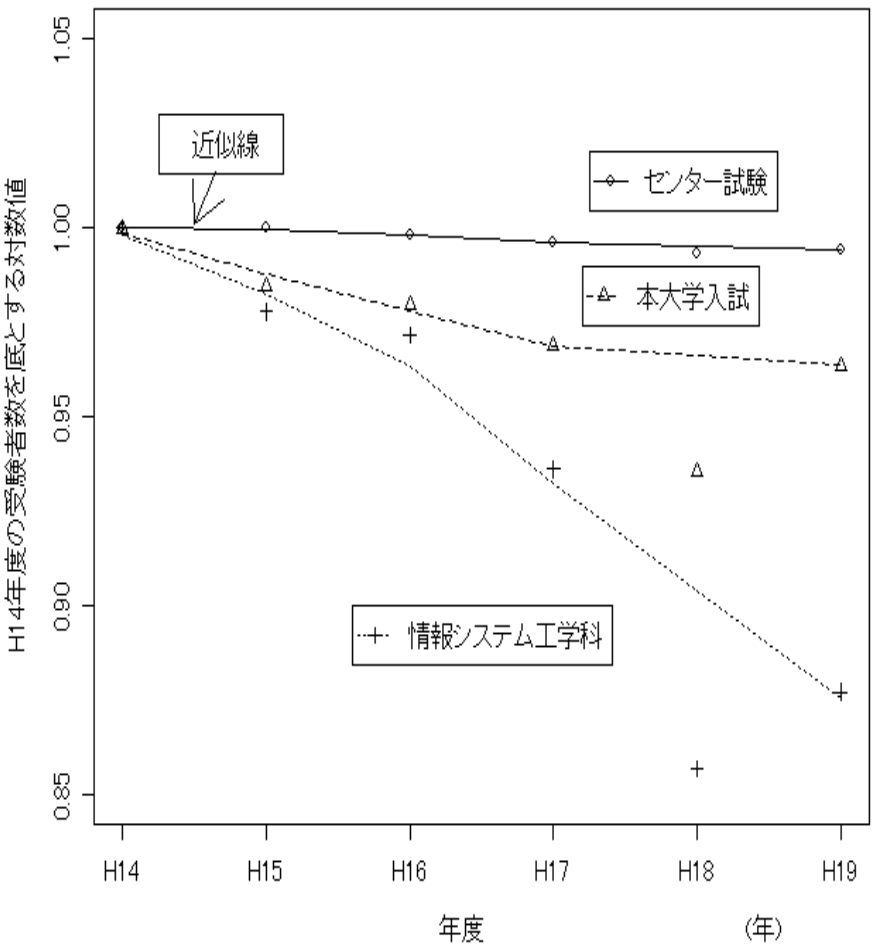

図 3　センター試験と本大学と情報システム工学科との H14 年度の受験者数を底とした時の推移

[*18] OSU(Osaka Sangyou University) プロジェクト共育とは H19 年度より本格的に導入されたもので、学生の社会人基礎力向上に貢献するためのプログラム。

[*19] センター試験と本大学と情報システム工学科との H14 年度の受験者数を底とした時の推移のグラフは、独立行政法人大学入試センターと本大学の入試センターの情報を参考に作成したものである。

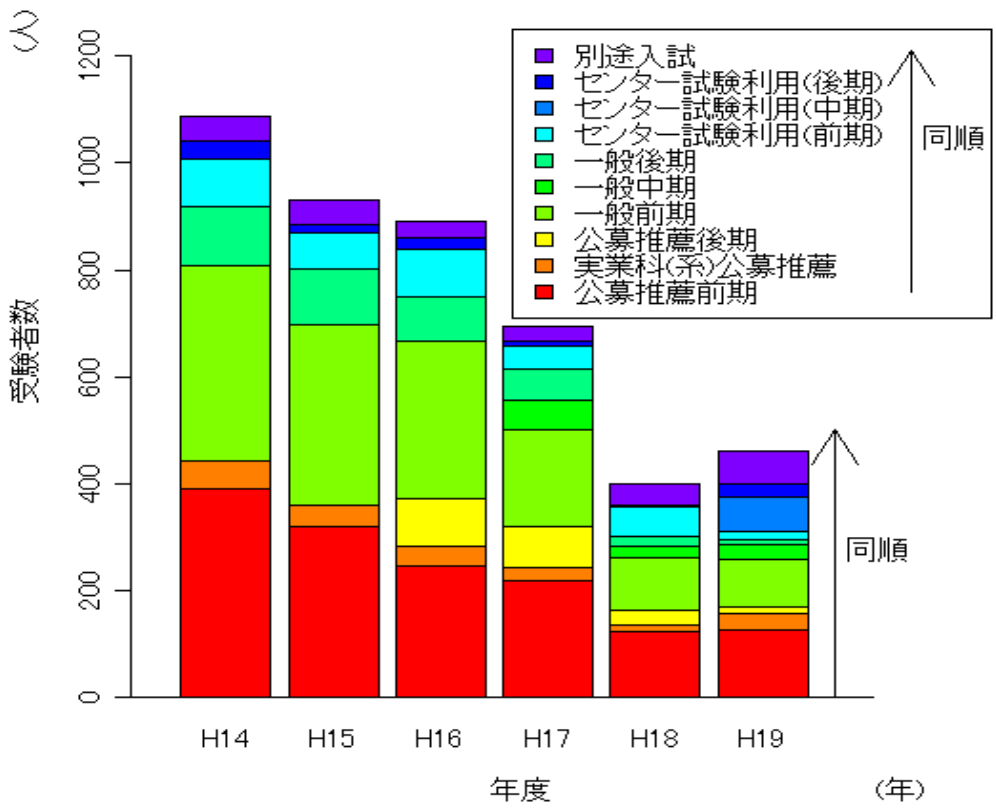

図 4　過去 6 年間の情報システム工学科の入学試験方式別受験者数

また、過去 6 年間の情報システム工学科の入学試験方式別受験者数を図 4 [*20]に示す。図より H19 年度は本大学の試験方式として新しく導入したセンター試験利用入試 (中期) の受験者数が増えていることがわかるが、過去 6 年間のデータから考えると受検者数は減少傾向にある。

そこで、本大学の受験者数が増加するためには受験者が本大学に興味をもってもらうことが大事である。第 1 章で述べた通り、SNS はユーザに対して好印象を与えているいるので、i-SENS が受験生の興味を引くきっかけになるのではないだろうかと考える。

そこから、現在 i-SENS が受験生に対してどれくらいの影響を与えているのかを調査し、現在の問題点から今後の運営・管理にいかせる解決策を提案する。

それによって、i-SENS がより多くの受験生に影響を与えるようになることが目的である。

[*20] 過去 6 年間の情報システム工学科の入学試験方式別受験者数のグラフは、入試センターの過去 6 年間の入学試験のデータを元に作成したものである。

4　アンケートの内容

以下は、i-SENS を利用している受験生に 2007 年 12 月 10 日までの本大学の受験状況と i-SENS についてコミュニティ上で質問する。アンケートの内容を以下に示す。

質問 1

本年度、出願期間が 10 月 31 日までの大阪産業大学 (本大学) の入学試験に出願した。
はい or いいえで回答して、はいの場合は、どの学科のどの試験方式に出願しましたか。あと、その動機を回答して下さい。
出願期間が 10 月 31 までの主な入学試験

- 公募推薦前期入学試験
- AO 入学試験
- 実業科 (系) 公募推薦入学試験
- 自己推薦入学試験
- スポーツ推薦前期入学試験

質問 2

今後、本大学の入学試験を受験しますか。
はいと回答した方、どの学科のどの試験方式で受験する予定ですか。
11 月以降の主な入学試験

- 公募推薦後期入学試験
- 一般前期入学試験
- 一般後期入学試験
- 大学入試センター試験利用入学試験
- スポーツ推薦後期入学試験

質問 3

質問 1、質問 2 ではいと回答した方、受験するきっかけや動機を回答してください。

質問 4

質問 1、質問 2 ではいと回答した方、もし、本大学の入学試験に合格したら、入学しますか。また、その理由 (入学しない方も含む) を回答してください。

質問 5

その他、i-SENS に関することや御意見、御感想をお願いします。

質問 6

i-SENS は、受験生にとって、有意義なものであるか。“はい” か “いいえ” で答えてください。
また、その理由も答えてください。

5　アンケートの結果

第 5 章のアンケートを実施した結果は以下を表 1 に示す。

i-SENS のプロフィールで所属が高校生として i-SENS に登録しているメンバーは 30 名である。アンケートの回答者はそのうち 4 名である。回答者を匿名にするため、ナンバーを付けた。

表 1　アンケート結果

	No.1	No.2	No.3	No.4
質問 1 10 月末までに出願したか	指定校推薦入学試験 情報システム工学科 理由:CP や OS のシステムなどに興味を持っているからです。	指定校推薦入学試験 情報システム工学科 理由:C 言語やプログラミングに興味を持っているからです。	指定校推薦入学試験 情報システム工学科 理由:プログラミングに興味がある。PC をもっと知りたい。	AO 入学試験 情報システム工学科 理由:動機はプログラミングに興味があるからです。
質問 2 その後の出願予定	公募推薦後期入学試験 情報システム工学科	公募推薦後期入学試験 情報システム工学科	公募推薦後期入学試験 情報システム工学科	いいえ
質問 3 本大学を志望した動機	科学研究会的なもので研究室などを何度か寄せていただき親近感と興味を持ちさらに先生にすすめをいただきました。	オープンキャンパスで体験などをやらせてもらい「この大学は自分にあった勉強ができる」。そう思ったからです。	オープンキャンパスやホームページをみて興味を持ったからです。	オープンキャンパスで興味を持ったからです。
質問 4 入学するか その理由	入学します 指定校推薦なので、入らないとほかに道も準備していないです。	入学します 指定校推薦なので合格したら推薦して下さった高校の迷惑にならぬよう貴校で勉学に励みたいと思います。	入学します 指定校推薦なので、貴校に入学しか考えていません。	入学します 僕ももうそれしか考えていないです。
質問 5 i-SENS への意見	こう、できれば産業大学生みんなが使えばもっと楽しいかなぁ・・と少し思います。	背景をいれたりするといいと思います (字の見えやすさなら真っ白がいいですが・・・) あとは No.1 さんと同じ意見です。	背景が変えれたらいいと思います。	僕も No.1 さんと同じ意見です。
質問 6 i-SENS は有意義であるか	はい 他の専科の人にも教えてあげたいです。	はい 色々と大学のことを聞けたりなによりも早く友達を作ることができるというのがいいと思いました。	はい 大学の情報はほとんど一定なので大学生の生の声が聞けるいい機会であると思いました。	はい 受験生や大学の皆さんとのコミュニケーションのきっかけになるかなと思いました。

5.1 アンケートの集計

表 1 よりアンケートの集計したものは以下のとおりである。

本年度、出願期間が 10 月 31 日までの本大学の入学試験に出願した。

- はい 4 名
- いいえ 0 名

学科

- 情報システム工学科 4 名

試験方式

- 別途推薦 (指定校推薦含む) 入試 3 名
- AO 入試 1 名

理由

- プログラミングや PC(ソフトウェア) に興味を持っている。

今後、本大学の入学試験に出願しますか。

- はい 3 名
- いいえ 1 名

学科

- 情報システム工学科 3 名

試験方式

- 公募推薦後期入試 3 名

興味を持った理由

- 本大学を訪問して興味を持った (オープンキャンパス含む)

もし、本大学の入学試験に合格したら、入学しますか。

- はい 4 名

i-SENS は、受験生にとって、有意義なものであるか。

- はい 4 名

理由

- 色々と大学のことを聞ける。
- 早く友達を作ることができる。
- 大学生の生の声が聞ける。
- 他の受験生や大学生とコミュニケーションをとれる。

i-SENS へのご意見

- 本大学の学生みんなが使えれば、もっといい。
- 背景を変えられたら良くなる。

6　現在の i-SENS の問題点とその解決策の提案

アンケートの結果や本大学の受験者数の現状を元に i-SENS の問題点を示し、その解決策を提案する。

6.1　アンケートの結果を参考にした受験生が受ける i-SENS の影響

質問 4 のアンケートの結果を考えると、アンケートの回答者は全員本学の入学希望者でアンケートの回答者の i-SENS に対する興味を引きつけている。また、i-SENS の運営を始めて 1 年たっていないので受験生の受験動機には入らないものの、質問 6 の結果より回答者にとって有意義なものとしてとらえられている。

i-SENS の用途としては、受験生が数少ない本大学の学生の生の声を聞く場として利用している。実際に、学生とマイフレンド登録をしているメンバーもいる。そして、自分以外の受験生の意見交換の場としても利用している。例えば、2008 年度受験生の集いと言うコミュニティを作って意見交換を行っている。つまり、受験生の興味を引きつけているという点で i-SENS は役割をはたしていると言える。

6.2　現在の i-SENS の問題点

アンケートの結果より、本大学の学生みんなが使えればいいと言う意見がある。より多くの本学の学生を知ってもらえたほうが、多くの受験生の興味をもってもらう可能性ができる。加えて、学生同士の新しい交流の場としても利用できる。サーバの記憶容量を考えた場合、情報システム工学科の学生のみの利用としたとき、快適なサポートができる。しかし本学の全学生約 1 万人をメンバーとすると、快適なサポートができない可能性が高い。

その他、今後のサーバの維持費用や新しい PC パーツの購入などの問題も発生する。

つまり、i-SENS の資金が問題となる。

6.3　解決策の提案

本大学からの資金援助を受けることが、今考えられる 1 番の解決策であると考える。

6.3.1　本大学からの資金援助

i-SENS を本大学公式 SNS として運営する、または OSU プロジェクト共育の一環として運営することで本大学からの資金援助をうけることができると考える。

その 2 つに共通するのは、本大学が i-SENS の必要性を見い出すことである。

そのためには、i-SENS のメンバー数の増加や知名度の向上が必要である。

i-SENS のメンバーを増やすには、本大学の学生にメンバーになってもらうことが一番有効である。そして受験生により多くの学生の生の声を聞いてもらうことで、より多くの受験生の興味を引きつけることができる。すると i-SENS を利用する受験生のメンバーも増加する。受験生のメンバーが増えることによって、本大学が i-SENS の必要性を認めて、資金援助してもらうことにつながる。

知名度はメンバーを増やすことで知名度も上昇する。しかし、学生より本大学の教員に知名度があるほうが i-SENS にとって本大学からの資金援助してもらえる環境になりやすいと考える。だが教員を i-SENS のメンバーに取り込もうとすると、その回りの教員や学生の影響が必要である。

また、アクティブユーザを増やすように努力する。

ここでいうアクティブユーザとは、1 週間に 1 回以上のログインをする、または日記などに書き込みをする本大学の学生をメインとしたユーザのことを指す。

アクティブユーザを増やすことによって、受験生が i-SENS を利用したとき多くの情報や新しい情報を見ること

ができる。だからより多くの本大学の学生の声を掲示することができる。そして、i-SENS のユーザ同士の意見交換の活性化も期待できる。そうすると新規ユーザを得やすい環境ができる。加えてユーザ同士の意見交換をしやすい環境を作ることができる。その環境が新しくアクティブユーザを増やせると考える。

i-SENS の現在の問題解決の段階をまとめたものを以下に示す。

- 本大学の学生を i-SENS のメンバーに取り込む
- 学生の評価によって、教員を i-SENS のメンバーとして取り込む
- 教員の評価によって本大学からの資金援助を受けやすくする
- 受験生を i-SENS のメンバーに取り込む
- アクティブユーザを作る

7　提案の検証

前項目で提案した内容を検証する。

7.1　本大学の学生を i-SENS のメンバーに取り込む

本大学の学生を i-SENS のメンバーに取り込む方法として、情報科学センターから配られた本大学の学生のメイルアドレスへ招待状を送信する。

本大学の学生へ招待状を送信する場合、本大学の学生なら誰でもよく個人を特定する必要がない。だから、このメイルアドレスは学籍番号と学科の所属によって決められているので最適な手段である。卒業後にメイルアドレスが無効になってしまうが、それまでに設定変更ページでメールアドレスを変更することで解決ができる。

現在は HDD の空き領域を考慮しつつ、学科、または学部で区切って招待する。

7.2　学生の評価によって、教員を i-SENS のメンバーとして取り込む

教員に影響を与える学生は、研究室に配属していたり、ゼミ活動に参加していたりして教員に直接話す機会の多い学生だと言える。その条件に合う学生は 4 回生 (卒業論文を作成している学生) に多い。

そのことを考慮すると、本大学の学生を i-SENS に招待する時、3 回生・4 回生をメインにメンバーとして招待していくと教員にも影響を与えやすいと考える。そして、教員を i-SENS のメンバーとして取り込む。

7.3　教員の評価によって本大学からの資金援助を受けやすくする

教員の評価をもらうためには、i-SENS が教員にとって有意義であるかどうかということである。教員にとって有意義であると私が考える理由としては、i-SENS に参加している学生の意見がそのまま見れることや、教員専用のコミュニティを作成するなどして教員同士の意見交換の場として使用できることである。そのような場で教員同士の新しい繋がりも作れると考える。

そのような積み重ねによって、本大学へ資金援助の提案をしやすい環境を作る。

7.4　受験生を i-SENS のメンバーに取り込む

受験生のメンバーを増やすには、本大学の学生の生の声を聞くことができる場として充実することだと考える。そのためには、本大学の学生みんなが使えればもっと良いというアンケートの回答から、多くの本大学の学生を i-SENS のメンバーとして取り込む。そうすることによって、より多くの本大学の学生の意見を掲示でき、受験生のメンバーの興味をより引き付け、受験生のメンバーが増えると考えられる。また、受験生に対して受験情報の告知のサービスなどあれば、受験生にとってもっと有効に使用できる。

7.5　アクティブユーザを作る

アクティブユーザーを増やすには、ユーザーにとってログインするメリットがあるかどうかが重要である。例えばマイフレンドが毎日更新していることやユーザにとって面白い、または興味を引くコミュニティがあることである。面白い、または興味を引くコミュニティの例としては、コミュニティ上で動画を配信することなどがある。動画は、本大学で開催している催し物などを許可を得て配信する。そして、i-SENS のユーザーが頻繁に利用することでアクティブユーザーが増える。つまり、多くのアクティブユーザーを作るには現在のユーザがもっと日記の更新を行ったり、面白い、または興味を引くコミュニティを作る事である。

8　考察

アンケートの実施により、アンケート回答者は全員 i-SENS の導入は有意義であると回答した。だから、i-SENS の導入によって本大学受験者への影響はあると考える。だが、アンケートの回答者が少ないためしかし、i-SENS の

9　まとめ

現在の i-SENS の問題は、サーバの機能の向上に必要な資金の問題である。

この問題を解決するには、本大学にとって必要性を見いださせる事で本大学から資金を援助してもらうことである。

それは、以下のことを実現することである。

- 本大学の学生を i-SENS のメンバーに取り込む
- 学生の評価 (好評) によって、教員を i-SENS のメンバーとして取り込む
- 教員の評価によって本大学からの資金援助を受けやすくする
- 受験生を i-SENS のメンバーに取り込む
- アクティブユーザを作る

その後、本大学に提案することで資金の問題が解決できると考える。

資金の問題が解決できればサーバの機能を向上でき、より多くのユーザをサポートできる。そしてユーザを増やすことで、より多くの受験生が興味を持つ可能性が生まれる。すると本大学を受験する人も増えると考える。

また、たくさんコミュニティが増えることで本大学の学生がいろいろなことに興味を持てる環境ができる。それによって、本大学の学生がいろいろな知識を身に付けることができる。加えて、学生同士が意見交換することで現在の社会で必要なコミュニケーション能力も身に付けることができる。それはつまり、i-SENS によってより多くの知識を持ち、コミュニケーション能力の高い学生を生み出せると考える。そうなると社会において本大学の知名度が向上する。そうすると本大学もより多くの受験生を獲得できると考える。

以上より、i-SENS が本大学によって資金援助されることで今より受験生に影響を与えるものになることを願う。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、この場を借りてお礼を申し上げます。指導教員の大垣 斉講師・藤井 信夫教授・情報安全工学研究室配属の学生・入試センターの職員の方々・アンケートにご協力くださった i-SENS のメンバー・その他情報システム工学科の学生方に深く感謝の意を表します。

参考文献

[1] IT 用語辞書 e-Words,SNS
http://e-words.jp/w/SNS.html

[2] IT 用語辞書 e-Words,MySpace
http://e-words.jp/w/MySpace.html

[3] IT 用語辞書 e-Words,mixi
http://e-words.jp/w/mixi.html

[4] Garbagenews.com,SNS の「mixi」、ユーザー数 1000 万人突破
http://www.gamenews.ne.jp/archives/2007/05/snsmixi1000.html

[5] IT 用語辞書 e-Words,Web サイト
http://e-words.jp/w/WebE382B5E382A4E38388.html

[6] IT 用語辞書 e-Words, オープンソース
http://e-words.jp/w/E382AAE383BCE38397E383B3E382BDE383BCE382B9.html

[7] 小川晃夫＆南大沢ブロードバンド研究会 (著) OpenPNE でつくる！最強の SNS サイト
ISBN978-4-88166-565-7

[8] 日本 PHP ユーザ会
http://www.php.gr.jp/

[9] PHP ライセンス FAQ
http://www.geocities.jp/rui_hirokawa/php/php4/license-faq.html

[10] goo 辞書, プロフィール
http://dictionary.goo.ne.jp/search.php?MT=profile&kind=jn&mode=0&kwassist=0

[11] goo 辞書, コミュニティ
http://dictionary.goo.ne.jp/search.php?MT=community&kind=jn&mode=0&kwassist=0

[12] IT 用語辞書 e-Words,HDD
http://e-words.jp/w/HDD.html

[13] IT 用語辞書 e-Words,OS(オペレーティングシステム)
http://e-words.jp/w/OS.html

[14] IT 用語辞書 e-Words,CPU(中央処理装置)
http://e-words.jp/w/CPU.html

[15] IT 用語辞書 e-Words,RAM
http://e-words.jp/w/RAM.html

[16] ZDNet Japan, オープンソース SNS エンジン「OpenPNE」、2.8.5 と 2.10RC2 が同時リリース
http://japan.zdnet.com/oss/story/0,3800075264,20359375,00.htm

[17] IT 用語辞書 e-Words,SQL
http://e-words.jp/w/MySQL.html

[18] Debian JP Project
http://www.debian.or.jp/project/
[19] IT 用語辞書 e-Words, ディストリビューション
http://e-words.jp/w/E38387E382A3E382B9E38388E383AAE38393E383A5E383BCE382B7E383A7E383B3.html
[20] IT 用語辞書 e-Words,Debian GNU/Linux
http://e-words.jp/w/Debian20GNU2FLinux.html
[21] IT 用語辞書 e-Words,GPL
http://e-words.jp/w/GPL.html
[22] IT 用語辞書 e-Words,BSD
http://e-words.jp/w/BSD.html
[23] IT 用語辞書 e-Words,BSD ライセンス
http://e-words.jp/w/BSDE383A9E382A4E382BBE383B3E382B9.html
[24] 大阪産業大学 OSU プロジェクト共育
http://sp.osaka-sandai.ac.jp/
[25] R-Tips
http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html
[26] ソーシャル・ネットワーキング サービス mixi(ミクシィ)
http://mixi.jp/
[27] i-SENS
http://sns.ise.osaka-sandai.ac.jp/index.php

※ URI・意味はすべて 2008 年 1 月 17 日現在